

# 埼玉大学

## 教育実践フォーラム2026

教育実践研究成果の発信と  
地域の学校・教員との交流の場

2026年2月14日（土）

主催：埼玉大学

後援：埼玉県教育委員会

さいたま市教育委員会

埼玉県公立小学校校長会

埼玉県中学校長会

さいたま市立小学校校長会

さいたま市中学校長会



## 時程・プログラム目次

開催に向けたあいさつ	埼玉大学長 埼玉県教育長 さいたま市教育長 埼玉大学教育学部長	p.3~
会場案内図・資料配布 URL・参加者アンケートのご案内		p.7~
受付 9:00~		
I. 9:30~12:10 教職大学院生 課題研究発表会 A棟各教室		p.21~
II. 13:00~14:40 全体会 CI講義室（対面） AII4講義室・附属小学校（一方向配信） 共生・ダイバーシティ社会を目指す学校教育 —「自分も大切に、あなたも大切に」を実現する教育実践—		p.10
III. 15:00~17:00 分科会案内 <b>教育</b> 教育の多様化から学校を考える（対面のみ AII3） <b>乳幼児教育・保育</b> ちがいが響き合い、つながり合う保育（対面 A427・双方向配信） <b>特別支援教育</b> 高校における特別な教育的ニーズのある生徒への対応（対面 AII2・双方向配信） <b>教員研修</b> 学校現場の悩みや課題を解消する糸口を話し合おう（対面 AII0・双方向配信） <b>学校保健</b> 子どもの健康問題どう解決するか？－保健管理と保健教育の融合－（双方向配信のみ）		p.11~

## **国語**

次期学習指導要領「論点整理」を受けて 国語科の課題（対面のみ A213）

## **英語**

児童・生徒が主体的に取り組む「遊び心」を取り入れた言語活動（対面 A 棟 2 階 エ デュスポ・一方向配信）

## **算数・数学**

『操作的活動』を生かす数学的活動：アナログ教材とデジタル教材（対面のみ A214）

## **理科**

現場で活用頂きたい教材や指導の工夫（対面のみ A324・325）

## **社会**

紛争解決・合意形成のための話し合いと社会科教育（対面のみ A210）

## **音楽**

あらためて学ぶ、音楽科授業におけるピアノ伴奏 一児童・生徒の表現に寄り添 い、引き出すためにー（対面のみコモ棟 6 階音楽第 1 講義室）

## **図画工作・美術**

文化をまとう、世界のドレスコードー鑑賞授業を通じて知る私そしてあなたー（対面のみ D 棟 1 階プロジェクト室）

## **体育・保健体育**

主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の現在地（対面のみ・附属小学校体育 館で開催）

## **家庭**

家庭科の衣生活の実習でどのような力が身に付くのか（対面 A426・双方向配信）

## **技術・情報**

新しい時代を拓く技術教育のあり方ー教科「情報・技術」をいかに捉えるか（対面 A114・双方向配信）

## **生活**

生活科の単元の新しいアイディアを出し合おう（対面 A211・双方向配信）

## **総合（STEAM）**

日本型 STEAM 教育の再確認と AI 時代の総合学習（対面 A212・双方向配信）

## 開会あいさつ

国立大学法人埼玉大学 学長 坂井 貴文



皆様には、平素より埼玉大学の教育研究活動に深いご理解と多大なるご協力を賜り、心より御礼申し上げます。また、本日は「埼玉大学教育実践フォーラム 2026」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

現在、我が国の学校現場および子ども・若者を取り巻く環境は、家庭、経済、人間関係など多様な要因が重なり、複雑化・困難化しております。そのような状況のもと、学校教育に携わる教員の皆様におかれましては、日々の教育実践において山積する諸課題に真摯に向き合い、その解決に向けてご尽力されていることに、深く敬意を表します。

埼玉大学では、大学の進むべき方向を示す基本方針として、「知の府としての普遍的な役割を果たす」「現代社会が抱える課題の解決を図る」「国際社会に貢献する」を掲げ、教育・研究・社会貢献の各機能の強化に取り組んでまいりました。令和4（2022）年度からの第4期中期目標期間においては、ダイバーシティ推進拠点としての機能を一層強化するとともに、多様性と包摂性のあるキャンパスおよび地域社会の実現を目指しております。特に教育学部では、「共生ダイバーシティ社会の担い手づくり」を理念に掲げ、令和8年度に組織再編およびカリキュラム改革を予定しております。

本フォーラムは、これらの方針と理念のもと、本学における教育実践研究の成果公開、附属学校園の研究発表、ならびに地域の学校および教員の皆様との意見交換を行う場として継続的に開催してきたものです。地域社会との連携をさらに深めるとともに、現代社会が直面する多様な教育課題について、理論と実践の両面から知見を共有する機会として位置付けております。

今年度は、附属学校園の実践研究成果を中心とする全体会のテーマとして、「共生・ダイバーシティ社会を目指す学校教育—『自分も大切に、あなたも大切に』を実現する教育実践—」を掲げました。相互の尊重と個々の尊厳を基盤とする教育の在り方について、多角的に検討する場となることを期待しております。

本フォーラムが、参加者の皆様の教育実践に資する有意義な機会となることを願っております。

# 埼玉大学教育実践フォーラム 2026

## 開催に寄せて

埼玉県教育委員会教育長　日吉　亨



埼玉大学教育実践フォーラム 2026 の開催を心よりお祝い申し上げます。

本フォーラムは、埼玉大学による教育実践研究の成果公開や、分科会における交流等を通して、多様な実践に触れ、異なる立場の参加者が学び合う貴重な機会であると捉えております。

また、今年度の全体会テーマである「共生・ダイバーシティ社会を目指す学校教育」は、第4期埼玉県教育振興基本計画において計画全体に共通する視点の一つとして掲げている「誰一人取り残されない共生社会の実現に向けた教育の推進」と重なるものであり、本県としても重要なテーマであると捉えております。埼玉県教育委員会では、この視点の下、児童生徒一人一人の実態に応じた指導・支援の充実を図り、教育の質の一層の向上に取り組んでおります。

児童生徒の総合的な学力向上策としては、埼玉県学力・学習状況調査を実施し、正答率のみならず、学力の伸びや非認知能力、学習方略の状況を含めて多面的に把握し、分析結果を授業改善につなげる取組を推進しています。主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を通して、児童生徒一人一人の学びを支え、確かな学力の育成を図っているところです。

また、喫緊の課題である不登校対策にも重点的に取り組んでいます。魅力ある学校づくりによる未然防止を基盤としつつ、県が独自に作成した「児童生徒支援ガイドブック」に基づき、児童生徒の状況に応じた組織的・継続的な支援の充実を図っています。加えて、メタバース空間を活用した多様な学びの場や居場所づくりを進め、学びの機会の保障に努めています。

本フォーラムにおいては、大学や附属学校園における実践研究の成果が広く共有されるとともに、参加される皆様一人一人が対話を通して知見を深め、「共生・ダイバーシティ社会を目指す学校教育」の実現に向けた新たな示唆を得る場となることを大いに期待しております。

結びに、本フォーラムが、埼玉教育の未来を共に描き、次代を担う子供たちの学びを一層充実させていくための有意義な機会となりますことを心より祈念いたします。

# 埼玉大学教育実践フォーラム2026

## 開催に寄せて

さいたま市教育委員会教育長 竹居 秀子



この度、「埼玉大学教育実践フォーラム2026」が開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

埼玉大学教育学部とさいたま市教育委員会は、平成16年に「さいたま教育コラボレーション協定」を締結し、今年度で21年目を迎えました。この協定に基づき、教員養成の充実や教員の資質向上、子どもたちの望ましい教育環境整備のため、相互に連携、協力しながら実践的な研究や活動を行い、本市の教育の振興を図っているところでございます。

今年度も貴学には、本市の大学院現職派遣教員の受け入れや、各学校の学校課題研究に対する御指導など、多くの御支援をいただきました。専門的で最新の知見を提供してくださった貴学に対し、深く感謝申し上げます。

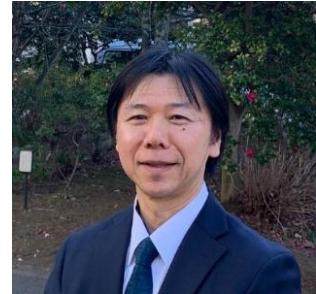
さて、令和8年度、さいたま市教育委員会では、すべての子どもたちの学ぶ権利を保障することを目的に、多様な学びのあり方を追求する、学びの多様化学校、「いろどり学園小学部・中学部」を開校いたします。子どもたち一人ひとりの好きや強みを生かしながら、多様性を包摂する柔軟な教育課程により、個に寄り添った教育を展開します。また、社会に開かれた教育課程の実現に向けた、カリキュラム・マネジメントの充実をより一層推進していきます。これにより、学校が、地域や家庭と連携、協力することを通じて、地域と共に子どもたちを育てる新たな教育文化をはぐくみ、子どもの多様で豊かな可能性を開花させる教育を実現してまいります。

本フォーラムにおいても、「共生・ダイバーシティ社会を目指す学校教育—『自分も大切に、あなたも大切に』を実現する教育実践—」が全体会のテーマに掲げられています。学生、教職員、研究者等が、一堂に会して議論されることは、これからの中の教育の在り方について意見交換ができる、大変意義深い場であると考えております。

御参加された皆様による交流が活発に行われ、その成果が広く学校教育に活用されますことを御期待申し上げ、御祝いの言葉といたします。

# 埼玉大学教育実践フォーラム2026

## 開会のあいさつ



国立大学法人埼玉大学 教育学部長 戸部 秀之

埼玉大学教育学部「教育実践フォーラム2026」にご参加いただき、誠にありがとうございます。日頃より本学部の教育・研究活動、ならびに附属学校園の教育活動に格別のご理解とご支援を賜りますことに、心より御礼申し上げます。

本学部は、質の高い力量ある教員を地域に輩出することを最大の目的とし、学部の各講座・研究室、附属学校園、教職大学院が探究する研究成果を発表するとともに、学外の先生方を交えて議論・交流する機会として、本フォーラムを開催してまいりました。

本フォーラムの前身は、平成20年度に始まった「附属学校フォーラム」です。教育学部との連携のもと、附属4校園の先進的な教育実践を広く発信してきました。その後、平成28年度の教職大学院設置を契機に、教職大学院の研究成果発表も含めた「教育実践フォーラム」へと発展し、令和3年度の教職大学院拡充改組後は、大学院生にとってより重要な研究発表の機会として、現在に至っております。コロナ禍ではオンライン開催を余儀なくされ、これまで大切にしてきた学外の皆様との直接の交流が困難となりました。オンラインによる研修や交流が広がる一方で、対面で集い、同じ場で議論し、互いの経験や実践知を共有することの意義を、改めて実感した次第です。

こうした経緯を踏まえ、本年度も昨年度に引き続き対面を中心に開催いたします。学生・大学院生・大学教員に加え、地域の学校関係者の皆様との交流を一層深め、教育実践をめぐる学びのネットワークを築くことを目指します。学校現場を取り巻く課題は多様化・複雑化しており、教育実践には不斷の改善と新たな知見が求められています。本フォーラムが、研究と実践をつなぐ対話を生み出し、授業づくりや子ども理解、学校経営、教員養成の質向上へつながる機会となることを願っております。現職教員の皆様にとっては研修・リカレント教育の機会として、学生にとっては学びを深め視野を広げる機会として、実りある時間となれば幸いです。

結びに、本フォーラムの開催にあたり、日頃よりご支援を賜っております埼玉県教育委員会様、さいたま市教育委員会様、ならびに埼玉県・さいたま市の各校長会様をはじめ関係各位に、心より御礼申し上げます。本日の学びと交流が、地域の教育のさらなる充実と発展につながることを祈念し、挨拶といたします。

## 埼玉大学教育学部構内図

\* 当日食堂は営業していません。



- ・JR京浜東北線「北浦和駅」西口下車→バス「埼玉大学」ゆき（終点）
- ・JR埼京線「南与野駅」下車→北入口バス停から「埼玉大学」ゆき（終点）
- ・JR埼京線「南与野駅」下車→西口バス停から全ての便が埼玉大学を経由します
- ・東武東上線「志木駅」東口下車→バス「南与野駅西口」ゆき（「埼玉大学」下車）

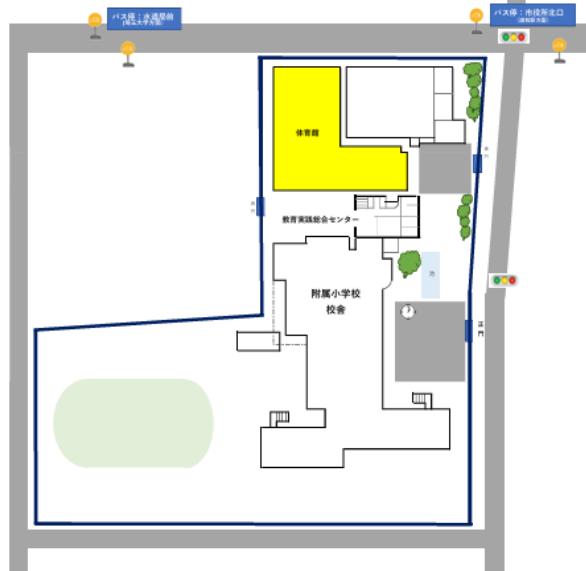
来場には公共交通機関をご利用ください。

各棟の教室会場案内図については、当日掲示する予定です。

## 埼玉大学教育学部附属小学校案内図（体育・保健体育分科会会場）



埼玉大学教育学部附属小学校 構内図



### 【徒歩】

JR京浜東北線 北浦和駅西口から 徒歩16分

JR京浜東北線 浦和駅西口から 徒歩21分

JR埼京線 南与野又は中浦和駅から 徒歩25分

### 【バス】

浦和駅西口・バス乗り場2から

国際興業バス・浦桜13-3 大久保浄水場行き 市役所北口下車5分 降りてから徒歩2分

## 資料共有フォルダ URL のご案内

▽フォーラムチラシ・プログラム・全体会資料・分科会資料データ共有フォルダ

[https://drive.google.com/drive/folders/1EEK5hcBeK4V5qvZpucXRgGtnOA8PiraQ?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/drive/folders/1EEK5hcBeK4V5qvZpucXRgGtnOA8PiraQ?usp=drive_link)



▽課題研究発表会要旨データ共有フォルダ

<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1eP4HFpWQfqgfTVcWXK6nI5sUU3fNzjvS>



## 参加者用アンケートのご案内

▽埼玉大学教育実践フォーラム 2026 参加者用アンケート

<https://forms.gle/d36KPdls6ZsctydM7>



▽全体会アンケート

[埼玉大学教育実践フォーラム 2026 全体会アンケート](#)



埼玉大学

マスコットキャラクター

「メリンちゃん」



## **全体会** (対面 CI 講義室 一方向配信は AII 4 講義室・附属小学校で視聴可能)

**附属学校園の課題と試み テーマ：共生・ダイバーシティ社会を目指す学校教育**

### **—「自分も大切に、あなたも大切に」を実現する教育実践—**

多様性を尊重することはますます重要なテーマとなっています。園や学校という場自体が、子どもたち一人一人の異なる背景や価値観を理解し受け入れ、共生・ダイバーシティ社会となることが大切であると考えています。そのことが、これからの共生・ダイバーシティ社会の担い手として子どもたちが育っていくことにも繋がるのではないかでしょうか。

今回の附属学校園の発表は、6ヶ年計画で進めている「共生・ダイバーシティ社会の担い手づくり」に関する教育モデル開発の中間報告をいたします。また、大学教員や附属学校教員との交流を通して、これからのお子さんについて共に語り合い、考え合う場にしたいと思います（当日は、対面参加の方もオンライン掲示板アプリ Padlet でご質問やご意見をいただくことができますので、携帯電話をご準備ください）。

**司会者 附属中学校 吉田 真梨 教諭**

**報告者 附属学校園教員**

**助言者 教育学部 北田 佳子 教授**

\*全体会用アンケートにご協力ください。

[埼玉大学教育実践フォーラム 2026 全体会アンケート](#)



## 分科会のご案内

\*オンライン参加者のためのZoom接続先情報は、グーグルフォームで申し込みをいただいた方が登録いただいたメールアドレス宛に、前日までに送信されます。届かない場合、登録情報が不十分な場合が多いので、フォーラム実施委員会(eduforumsaitama@gmail.com)までお知らせください。Plantで申し込みをいただいた方にはPlantの申込者用のページでお知らせをしていますので、確認をお願いします。

### ▽教育 教育の多様化から学校を考える（対面のみ A113プロジェクト室）

現在、中央教育審議会の中間答申案では、教育の多様化にあわせたカリキュラム・学校が提言されています。そこで教職大学院生とともに定時制高校・包括的な性教育の実践校などを事例に、多様なニーズを包摂するような学校や学びの空間のあり方について議論していきたいと考えています。本分科会では各事例の報告を行い、参加者との対話を通じて、議論を深めていくとともに、それぞれの学校現場や子どもたちの実態を通じて、悩みや問題を共有し、何かの示唆を得ることができればと考えています。

### ▽乳幼児教育・保育 ちがいが響き合い、つながり合う保育

#### (対面 A427講義室・双方向配信)

多様化する社会の流れを受けて、幼児教育・保育の場においても、子ども一人ひとりのバックグラウンドを大切にしたインクルーシブ保育に取り組む園は増えてきています。障害の有無や発達、国籍や家庭環境などに関わらず、すべての子どもが共に育ち合う環境づくりを目指して、わたしたちにできることは何でしょうか。園での子どもたちの様子を覗いてみると、はじめは「じぶんとちょっとちがうな」と感じても、一緒に遊んでいるうちに、そんな違いは気にならなくなって、自分や友だちのありのままを受け入れていく姿がみられます。「ちがいをおもしろがる」子どもたちの様子や、その姿を支える保育者の実践報告を通して、保育の中の“多様性”について、一緒に考えてみませんか？

## **▽特別支援教育 高校における特別な教育的ニーズのある生徒への対応**

### **(対面 AⅠⅡ 2講義室・双方向配信)**

2022年の文科省の全国調査によれば、学習面や行動面に著しい困難がある高校生は、1学年あたり複数名在籍しており、教師からの適切な理解と効果的な指導や支援を必要としています。教師一人一人が様々に工夫していますが、支援体制や研修のあり方など解決すべき課題は多岐にわたります。その分伸び代が大きく、これから充実が期待されているとも言えます。この分科会では、大規模な調査や数値からは現れにくい、高校教師の考え方や工夫に目を向け、高校における特別支援教育の充実につながるヒントを見出すことを試みます。

高校関係者だけでなく、一足先に特別支援教育が普及し、高校に子どもたちを送り出している小・中学校、さらに生徒や家庭、学校を支えている行政や専門機関の関係者の皆様とも、高校における特別支援教育について、意見を交わし、考えたいと思います。

## **▽教員研修 学校現場の悩みや課題を解消する糸口を話し合おう**

### **(対面 AⅠⅠ 0教職大学院講義室・双方向配信)**

皆さんが日々奮闘されている授業実践や、多様な児童生徒・保護者への対応など、学校現場の悩みや課題解決等に関するご質問に回答させていただきます。

さらに、皆さんがお持ちの興味・関心に応じて、教育実践総合センター教員がミニ講義を行うことも可能です。たくさんの皆さんの参加をお待ちしています。

## **▽学校保健 子どもの健康問題どう解決するか？**

### **－保健管理と保健教育の融合－（双方向配信のみ）**

子供たちの健康課題にいち早く気づき、その解決に向けて健康教育として関わりたいと考えていても、実際には思うように実践できていないと感じている養護教諭の方も多いのではないでしょうか。授業としての時間が確保しにくいことや、一人職として多様な業務を担っていること、周囲の教員の理解を得る難しさなど、現場にはさまざまな制約があります。

本研修では、「養護教諭が行う教育的関わりは、保健管理と保健教育の融合にヒントがあるのではないか」「日常的に行っている保健管理を教育的な視点で見直すと、どのような可能性が広がるのか」といった問いを軸に、参加者の皆さんと一緒に考えていきます。特別な取り組みを増やすのではなく、日々の実践を見つめ直すことで生まれる保健教育の糸口を探ります。

#### **▽国語 次期学習指導要領「論点整理」を受けて 国語科の課題**

##### **(対面のみ A2・3講義室)**

2025年9月に公表された次期学習指導要領「論点整理」には様々な論点が提示されていますが、現在の国語科に求められている課題は何か、あらためて検討したいと思います。とくにデジタル化や教育課程の「柔軟化」について、現職教員である先生方と問題を共有しながら対応を考えしていくことを目標にします。

#### **▽英語 児童・生徒が主体的に取り組む「遊び心」を取り入れた言語活動**

##### **(対面 A棟2階エデュスポ・一方向配信)**

英語の授業において、生徒が熱中して取り組むような活動にはどんな秘密があるのでしょうか。埼玉大学教育学部の応用言語学演習（ゼミ）では、「ゲーミフィケーション」という、ゲーム以外の分野にゲームの仕組みや要素を取り入れ、ユーザーのモチベーション向上、エンゲージメント強化などを目指す手法を取り入れた言語活動を、学生と一緒に考えています。当日は、学生が考案した「練習をもっと楽しくする活動」や「コミュニケーションをもっと豊かにする活動」を実演します。オンライン参加のみなさんには、会場で参加者が活動を体験している様子をご観覧いただき、一緒に効果的な言語活動のあり方を検討できればと考えています。なお、体験後には、埼玉大学教育学部附属中学校の蓬澤守教諭と埼玉大学奥住桂准教授による対談形式の振り返りも予定しています。

## **▽算数・数学 『操作的活動』を生かす数学的活動：アナログ教材とデジタル教材**

---

### **(対面のみ A214講義室)**

数学的活動における『操作』に焦点を当て、アナログ教材を手で操作することによる数学的活動と、デジタル教材を操作することを通した数学的活動の2つを実際に実行もらうワークショップを計画しました。具体的には、算数セットなどのアナログ教材、ICTを活用するデジタル教材を、発達段階に応じて活用する数学的活動を参加者に実際に体験していただきます。

## **▽理科 現場で活用頂きたい教材や指導の工夫**

### **(対面のみ A324・325講義室)**

理科の各分野（物理、化学、生物、地学、理科教育）の教員や学生、長期研修教員、附属小中学校の教員が、研究成果を踏まえて学校現場で活用頂きたい理科教材や指導の工夫について、10以上のポスター発表と教材紹介のブースに分かれて、ワークショップ形式で随時ご紹介します。ご自身の関心の高いブースに自由に訪問し、発表を見るとともに発表者と質疑して頂くことで、内容への理解を深めて頂ければ幸いです。

#### ○物理

- ・ポスター発表「ICT 機器を活用した『電気の利用』における理科指導」 上敷領 静香  
(越谷市立蒲生小教諭)、大向 隆三教授

#### ○化学

- ・ポスター発表「理科教育へカラーシャボン玉の活用」 松岡 圭介准教授

#### ○生物

- ① ポスター発表「openUC2(You see too) 3D プリント顕微鏡の紹介」  
日比野 拓 准教授

- ② ポスター発表「宝蔵寺沼ムジナモの遺伝的多様性の研究」  
山崎 寛太、手塚 日向詩（日比野研・学部4年）

#### ○地学

- ① ポスター発表「浅間山を例とした Field-Studio teaching 」

鈴木 一幸（岡本研・大学院2年）

- ② ポスター発表「スペイン、バルセロナ自治大学での教育についての学び」  
中山 祐希（岡本研・学部4年）

#### ○理科教育

- ① ポスター発表「教師の授業改善に関する研究 —OPPA論に注目して—」

北村 千咲（中島研・大学院2年）

② ポスター発表「教師の『自己評価』能力に関する研究-OPPAに注目して-」

岸田 笙（中島研・大学院1年）

③ ポスター発表「OPPA論について」

鈴木 迅人（中島研・学部4年）、安西 樹（中島研・学部3年）ほか

④ ポスター発表「理科教育における「学習と指導と評価の一体化」に関する研究－授業のグランドデザインを活用した事例を中心として－」

松本 尚樹（中島研・長期研修教員・秩父市立荒川東小学校教諭）

⑤ ポスター発表・教材紹介

「概念地図法を用いて理科学習と児童の生活や経験とのつながりを認識させる理科指導法の開発－小学校第3学年の学年末の振り返りを想定して－」

大久保 葵生（小倉研・学部4年）

⑥ ポスター発表・教材紹介「知っている知識を使える知識へと転移させる理科指導の工夫－中学校第3学年「仕事の原理」を日常生活に適応する授業－」

橋本 直希（小倉研・学部4年）

⑦ ポスター発表・教材紹介「『遊び』に対する意欲を理科の学習意欲に転換する指導法の開発－問題発見・設定する力の育成と関連させて－」

廣川 雄大（小倉研・学部4年）

⑧ ポスター発表・教材紹介「中学生に理科が関わる諸課題の解決に関わる多様な職業を認識させるカードゲームを用いた授業の開発」

古谷 春樹（小倉研・学部4年）

⑨ ポスター発表・教材紹介「生成AIを活用したロールプレイによる中学校理科授業－科学的情報を調査し、評価し、利用する能力の育成と関連させて－」

中村 天駿（小倉研・大学院1年）

⑩ ポスター発表「主体的・対話的で深い学びを通じて児童の創造的資質・能力を育む理科指導－理科における創造的社会問題解決を通じた児童の発想力・構想力・創造的自己効力感の育成－」

内野 皓輝（小倉研・長期研修教員・鴻巣市立吹上小学校教諭）

○教育学部附属小学校より

・ ポスター発表・教材紹介

「令和7年度理科授業実践発表（第4学年「とじこめた空気と水」他）」

門脇 玄明教諭

○教育学部附属中学校より

・ ポスター発表・教材紹介

「令和7年度実践発表及び教材紹介」

谷津 勇太 教諭、伊藤 慶祐 教諭、小岩井 爽 教諭

## ▽社会 紛争解決・合意形成のための話し合いと社会科教育

### (対面のみ A210 講義室)

小学校学習指導要領「社会」および中学校学習指導要領「社会」では、紛争解決や合意形成が強く求められています。これは、高等学校学習指導要領「公民」においても同様です。中学校学習指導要領「社会」では、「対立と合意」という社会的な見方・考え方を働きかけて社会的事象について考察することとなっています。学習指導要領の記述を踏まえて、紛争解決や合意形成する力を育成するためには、法的な見方・考え方の習得（法教育）に加えて、話し合いの技能の活用（交渉教育）を小・中・高校生から系統的に行うことが重要です。

交渉の技能は、いま注目されている非認知能力の一つであり、今後の教育に大きな影響を与えるものになります。また従来、「技能」は、資料の収集・読み取り・解釈という学習技能を意味していました。しかし、エージェンシーが注目される今、「技能」を「社会で実際に活用できる実践的技能」と捉え直すことも必要になってきます。「紛争解決」に関する教育は、こうした教育界の潮流を受けて、新学習指導要領で注目を集めることが予想されます。

本分科会では、社会科における紛争解決の理論を示すと同時に、具体的な実践を提示します。

## ▽音楽 あらためて学ぶ、音楽科授業におけるピアノ伴奏 一児童・生徒の表

### 現に寄り添い、引き出すためにー（対面のみ コモ棟6階音楽第1講義室）

音楽科の授業において日々先生方が演奏されているであろうピアノ。伴奏のために、また歌唱教材の旋律を示すために、鑑賞教材の旋律を取り出して…と、ピアノ演奏は幅広く授業実践を支えています。だからこそ、ピアノを専門的に学ばれた先生も、そうでない先生も、授業のなかでもっとピアノを効果的に学習指導のなかで用いることができたら、ピアノでこんなことができたら、とお感じのことがあるのではないかでしょうか。

そこで本分科会では、音楽科教育専門の森 薫、ピアノ専門の東浦亜希子、附属小学校音楽科で日々実践に取り組む遠山里穂の3名により、音楽科の授業におけるピアノ伴奏やピアノ演奏に関して、改めて考え、学ぶプログラムを企画しました。教師の教授行為におけるピアノ演奏の位置づけ、授業実践におけるピアノの活用方法、伴奏の困りごと相談、

公開形式での歌唱教材を用いた伴奏助言指導(遠山と東浦による)…様々な角度から、参加者の皆さんと、あらためて「授業におけるピアノ」に迫る時間となればと思います。

## ▽図画工作・美術 文化をまとう、世界のドレスコード ー鑑賞授業を通じて

### 知る私そしてあなたー (対面のみ D棟プロジェクト室)

#### ●研修内容

図画工作・美術の分科会では世界の民族衣装を実際に着用することによって様々な文化を身体的・視覚的に体験する鑑賞の授業を行います。それぞれの衣装が持つ「かたち」や「色」「質感」「デザイン性」などの造形的要素に注目しつつ、それらが内包する文化的背景を想像し、自身の感じ方と他者からの視点を交換するなど、個々の文化を比較する活動を通じて自己の視点を相対化し、異なる文化を理解する力を体験的に育むことを目的としています。

#### ●当日の流れ

##### 【展開1】体験と観察：「ポーズをとって写真を撮ろう！」

教室に5～6着の異なる民族衣装を用意し、4人1組のグループ毎に「まずは着てみて、ポーズをとってみよう」と促します。全員が複数の衣装を着用し、互いに写真に撮りあった後、撮影した写真や実物を見ながら衣装の造形的要素について話し合います。

##### 【展開2】共有と対話：「視点を交換し、深める」

元のグループを解体して新しいグループを編成し、任意の一着について深く話し合う場を設けます。最終的にその衣装が持つ造形的要素から読み取れる文化的背景について協議し発表をしてもらいます。

##### 【展開3】振り返り：「多彩な文化とわたし」

振り返りとして指導者から、それぞれの衣装が持つ造形要素や意味、文化的背景について解説を行い、多彩な文化の魅力を味わうとともに、異なる文化を理解する力と意義について参加者全員で話し合います。

## **▽体育・保健体育 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の現在地**

### **(対面のみ 附属小学校体育館・会場案内図の確認をお願いします。大学構内での実施ではありませんのでご注意ください)**

学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会での議論が加速しています。既に教科・テーマごとに設置されたWGでの議論が積み重ねられている状況です。こうした動向も気にかかるところです。一方で、現行学習指導要領の趣旨の深化、特に主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善はどこまで進んでいるでしょうか。授業の何が変わったのか、改めて振り返りその成果と課題を次期改訂の方向とすり合わせていくことが重要だと考えます。さて、今年度は以下の内容を企画しています。こうした内容をもとに日頃の授業実践について、意見交換ができればと考えています。

- 「みんなが参加できるゴール型球技の指導法：「側線のボール運び」の実践」  
(実技提案) 埼玉大学 松本 真
- 「小学校高学年ゴール型ボール運動における攻守切り替え学習の実践的研究～ハーフコートゲームからオールコートゲームへの円滑な接続に着目した授業づくり～」(研究発表) 春日部市立江戸川小中学校 校長 鈴木 美江 先生
- 「埼玉県の体育・保健体育の授業の現状と課題」(行政報告)  
埼玉県教育局県立学校部保健体育課 学校体育担当 児玉 直也 指導主事

## **▽家庭 家庭科の衣生活の実習でどのような力が身に付くのか**

### **(対面 A4 26講義室・双方向配信)**

家庭科では、学習活動で身に付いた力を発揮して生活場面の課題に取り組むことを大切にしています。生活様式が変化していく中で、学習内容と生活場面を結びつける機会を充実させていくことが重要であると考えています。今回は、知識や技能に加えて学習を通して培った考え方や解決までの道筋の立て方などを「生活の中で生きて働く力」と捉え、衣生活に関わる実習の授業を行った附属小学校の授業実践をご紹介いたします。多くの先生方と現場での様子を共有し、家庭科の授業をよりよいものにする時間にしたいと思います。

## ▽技術・情報 新しい時代を拓く技術教育のあり方 一教科「情報・技術」をいかに捉えるか (対面 A114 講義室・双方向配信)

分科会「技術・情報」では、「新しい時代を拓く技術教育のあり方—教科『情報・技術』をいかに捉えるか—」をテーマに、次期学習指導要領を見据えた技術教育の改革動向と今後の方針性について検討します。情報化・デジタル化が急速に進展する中で、技術教育に何が求められているのか、教科の枠組みや学びの本質をどのように再構築すべきかを、教育課程部会情報・技術ワーキンググループでも活躍される信州大学村松浩幸先生による講演を手がかりに議論を深めます。学校現場の実践や課題とも接続しながら、これらの技術・情報教育の可能性を参加者とともに考える分科会です。

## ▽生活 生活科の単元の新しいアイディアを出し合おう

### (対面 A211 講義室・双方向配信)

気候変動や感染症対応など予期しないさまざまな事態の中で、これまで通りの生活科の単元計画の実施が困難な状況が増えてきたように思います。猛暑で屋外での活動が十分にできない、どんぐりをあつめておもちゃ作りを構想しても十分集められないなど、活動中心の生活科実践特有の悩みは尽きないです。今年の分科会では、そんな悩みを解決するようなアイディアを参加者の皆さんと出し合って、この際、これまでにない新しい生活科の単元や活動を構想していきたいと思います。うちの学校ではこんな工夫をしてみました、こんなアイディアがありますが実際にどう進めたらいいでしょうかなど、来年の単元計画に生かせるような協働探究をする時間にしたいと思います。

\*温故知新ということで、会場で埼玉大学に所蔵している古い生活科教科書展示も行います。

企画	若林 広泰（埼玉大学教職大学院生・戸田市立芦原小学校）
司会・趣旨説明	宇佐見 香代（埼玉大学教育学部心理・教育実践学講座）
登壇者	横田 典久（埼玉大学教育学部附属小学校） 鈴木 康平（埼玉大学教育学部附属小学校） 若林 広泰（埼玉大学教職大学院生・戸田市立芦原小学校）

## ▽総合（STEAM）　日本型 STEAM 教育の再確認と AI 時代の総合学習

### （対面 A2 | 2 講義室・双方向配信）

最近、あまり STEM/STEAM 教育という言葉を聞かなくなつたように思いますがいかがでしょうか。では、総合的な学習の時間は話題に上つてゐるでしょうか。探求活動が注目されている今、日本が世界に誇れる「総合的な学習（探求）の時間」や新しくできた「理数探求」ですが、どんなテーマを選ぶのか、どんな活動をするのか、その内容や方法について実践の現場での悩みはむしろ広がつてゐるのではないかでしょうか。その一因が AI 技術の進展でしょう。何か調べるにも「AI に聞けばいい」と調べ学習の考え方自体を転換しなければならない状況ではないでしょうか。

そこで、今回の分科会では、あらためて、分科会オーガナイザーの野村から総合的な学習（探求）の時間が、日本型 STEAM 教育であることを再確認する提案をさせていただくとともに、今年一緒に実践、研究を行つた先生方や学生さんを登壇者に迎えて AI 時代にわたしたち人間の学びはどうある必要があるのか、教育哲学的な問いをさまざまな理論や実践を共有することを通して一緒に深めていきたいと思います。

## 2025年度課題研究発表会プログラム

各発表の要旨は以下のリンクから閲覧できます。

<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1eP4HFpWQf9gfTVcWXK6nI5sUU3fNzjvS>



会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類
会場番号 1 [A114 教室]	M①	9:30~9:45	永井 聖路	芸術系(音楽)	ウェルビーイングの実現を志向する高等学校芸術科音楽の授業	1 学卒
	M②	9:45~10:00	神村 省吾	芸術系(音楽)	合唱曲における旋律と歌詞の関わりとその指導 —松下耕作品に焦点をあてて—	1 学卒
	M③	10:00~10:15	大塚 真里奈	芸術系(音楽)	音楽科における「日本の音楽」の指導階梯に関する研究 —民謡を中心に—	1 学卒
	M④	10:15~10:30	小林 遥香	芸術系(音楽)	部活動における学習に関する研究 —中学校吹奏楽部に焦点を当てて—	1 学卒
	M⑤	10:30~10:45	坂田 飛翔	身体文化	学校体育における3x3バスケットボールの教育的価値に関する研究	1 学卒
	F①	10:45~11:05	小口 佑介	身体文化	児童の困り感をめぐる教師の関与の過程 ～6年生飛び箱運動における省察を通して～	1 現職
	F②	11:05~11:25	遠山 里穂	芸術系(音楽)	音楽科における教師の思考に関する研究 —「オープン・フォーム」を志向した授業改善を通じて—	1 現職
	F③	11:25~11:45	橋本 廉士	芸術系(音楽)	エンゲストロームによる「活動システム」モデルの音楽科教育研究への援用に関する考察 —スコーピングレビューを用いて—	2 学卒
	F④	11:45~12:05	逸見 友花	芸術系(音楽)	小学校音楽科における幼保小連携・接続のカリキュラム構想 —第1学年のわらべうた教材に着目して—	2 学卒

会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類
会場番号 2 [A113 教室]	M①	9:30~9:45	渡邊 実侑	社会	熟議に基づく中学校社会科授業開発研究	1 学卒
	M②	9:45~10:00	原田 龍空	社会	中学校社会科地理的分野における地理的技能育成を目的とした授業設計 —「地域調査の手法」を扱った授業実践案の構想を通して—	1 学卒
	M③	10:00~10:15	棚澤 洋人	社会	高等学校歴史系科目の授業における資料の活用と歴史的思考力の育成	1 学卒
	M④	10:15~10:30	岩間 萌	社会	「新トゥールミンモデル」に基づく高等学校公民科の授業開発	1 学卒
	F①	10:30~10:50	浅見 直輝	社会	高等学校歴史科における「史料批判」を取り入れた教材開発	2 学卒
	F②	10:50~11:10	阿久津 佑實	社会	中学校社会科歴史的分野の授業における教材開発に関する実践研究 —「地域」史資料の教材開発を中心に—	2 学卒
	F③	11:10~11:30	岡田 実乃璃	社会	高等学校における歴史的思考力育成の研究 —歴史総合の授業実践を通して—	2 学卒
	F④	11:30~11:50	楊井 真琴	社会	意思決定学習における「民主的な意思決定」	2 学卒

会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類
会場番号 3 [A112 教室]	M①	9:30~9:45	濱島 右京	社会	歴史的背景理解に基づく日本史探究授業研究 —現代の価値観を相対化することを通して—	1 学卒
	M②	9:45~10:00	相原 玲	社会	高等学校公民科「倫理」における対話的学習と他者理解 —Peter F. Schmidの承認概念を手がかりとして—	1 学卒
	M③	10:00~10:15	柳取 裕	社会	高等学校公民科におけるメディアを通した公正な世論の形成に関する授業づくりと教科内容の基礎研究	1 学卒
	F①	10:15~10:35	小林 陸久	社会	小学校社会科における「批判的な希望」を目指す授業の検討 —小学校第4学年「飲料水の供給」についての授業実践を事例として—	2 学卒
	F②	10:35~10:55	井上 圭介	社会	生徒の「社会参加力」を育む中学校社会科授業の研究 —公民的分野での社会参加学習を通して—	1 現職
	F③	10:55~11:15	島田 拓史	社会	児童の思考を深める小学校社会科学習 —発問の工夫を通して—	1 現職
	F④	11:15~11:35	村橋 直樹	社会	小学校社会科における紛争解決学習の理論と方法 —児童の交渉技能の育成に着目して—	1 現職

会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類	
会場番号 4 [A214 教室]	中間 ～ M ～	M①	9:30~9:45	木村 歩花	言語文化系(国語)	役割語の習得について	1 学卒
		M②	9:45~10:00	斎藤 視由	言語文化系(英語)	日本人中学生に望ましい波及効果をもたらす英単語テストの形式－学習者の語彙学習方略に及ぼす影響－	1 学卒
		M③	10:00~10:15	小林 暖奈	言語文化系(英語)	小学校外国語科における音韻認識指導の現状と課題	1 学卒
	最終 ～ F ～	F①	10:15~10:35	田辺 愛	言語文化系(国語)	中学校国語科における考え方の形成を促す授業づくりに関する研究－文学的文章における生徒の「問い合わせ」の構築－	1 現職
		F②	10:35~10:55	和合 嘉子	言語文化系(英語)	コミュニケーションを図る資質・能力の育成と指導・評価の一體化－ループリックの活用－	1 現職
		F③	10:55~11:15	山田 飛鳥	言語文化系(国語)	学習者の興味関心を惹く古典の授業展開について	2 学卒
		F④	11:15~11:35	中本 雄大	言語文化系(英語)	中学校英語科における学習支援アプリ「Kahoot!」の実践報告及び有効的活用に向けた考察	2 学卒
		F⑤	11:35~11:55	有江 聖	言語文化系(英語)	小学校外国語科（グローバル・スタディ科）におけるインフォームド・アセスメントに関する研究－ループリックの事前提示が児童の「回避」や「強制」に与える効果に着目して－	2 現職通常年限2年

会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類	
会場番号 5 [A213 教室]	中間 ～ M ～	M①	9:30~9:45	佐久間 蓮	自然科学系(理科)	生成AIを活用した生物分類の学習を支援する教材の開発	1 学卒
		M②	9:45~10:00	松浦 丈一郎	自然科学系(理科)	信頼関係を基盤とする主体的な学びの促進－地域に根ざした探究活動を通して－	1 学卒
		M③	10:00~10:15	佐藤 俊	自然科学系(理科)	岩石・鉱物を用いた固体の安定関係 日立変成岩の解析例	1 学卒
		M④	10:15~10:30	柳澤 大喜	自然科学系(理科)	探究の芽を育む学習指導に関する研究 -理科授業における疑問と問い合わせに着目して-	1 学卒
	最終 ～ F ～	F①	10:30~10:50	安原 康弘	自然科学系(理科)	学びの変革に向けた教科横断的な環境教育モデルの構築と実践	2 学卒
		F②	10:50~11:10	鈴木 一幸	自然科学系(理科)	実験・観察による分子比の学習方法－鉱物や岩石を用いた実験・観察方法の提案－	2 学卒
		F③	11:10~11:30	北村 千咲	自然科学系(理科)	教師の授業改善に関する研究－OPPA論に注目して－	2 学卒
		F④	11:30~11:50	佐藤 陸人	自然科学系(理科)	天文分野における自ら学びに向かう力の獲得を目指して	2 学卒

会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類	
会場番号 6 [A212 教室]	中間 ～ M ～	M①	9:30~9:45	濵谷 樹	自然科学系(理科)	特別支援学級における「正確さを求める態度」の形成過程と指導支援の在り方－生活単元学習の実践を通して－	1 学卒
		M②	9:45~10:00	中村 天駿	自然科学系(理科)	生成 AI を活用したロールプレイによる中学校理科授業－科学的情報を調査し、評価し、利用する能力の育成と関連させて－	1 学卒
		M③	10:00~10:15	岸田 笠	自然科学系(理科)	教科教育における「人生型の主体的学習」に関する研究－OPPA論に注目して－	1 学卒
		M④	10:15~10:30	宮田 花彩花	自然科学系(理科)	有孔虫化石を用いた自然観察授業実践	1 学卒
	最終 ～ F ～	F①	10:30~10:50	市川 亮	自然科学系(理科)	小学校理科における個別最適な学びの実現に関する研究－足場かけを活用した“DI授業”的実践－	1 現職
		F②	10:50~11:10	塙本 晃大	自然科学系(理科)	実物を用いた観察活動の充実と教師の見取り－コンセプトマップとOPPシートの作成を通して－	2 学卒
		F③	11:10~11:30	原田 龍世	自然科学系(理科)	学校内で行える化石採集活動－水酸化ナトリウム水溶液を用いた放散虫化石の分離法－	2 学卒
		F④	11:30~11:50	竹田 莉乃	自然科学系(理科)	小学校化石観察授業実践－児童が自然を観察する態度を養うために－	2 学卒

会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類
会場番号 7 [A210 教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	芳山 誠馬	自然科学系(算数数学)	中学校数学科における授業のユニバーサルデザインに関する研究 -中学校第1学年「色々な立体图形をグループ分けする授業」を通して-
		M②	9:45~10:00	原えりさ	自然科学系(算数数学)	ラングレーの問題の補助線に焦点を当てた教材の研究
		M③	10:00~10:15	梅津 丈暉	自然科学系(算数数学)	高校数学におけるICTツールを用いた発見的推論を促す授業の考察
	最終 (F)	F①	10:15~10:35	菊池 瑞翔	自然科学系(算数数学)	数学の問題解決における科学計算ツールと生成AIの活用に関する一考察 -大学生向けワークショップの事例研究を踏まえて-
		F②	10:35~10:55	宮武 昌杜	自然科学系(算数数学)	「きく活動」がメタ認知形成過程に与える影響の一考察 -中学校3年生の授業中のやりとりを事例として-
		F③	10:55~11:15	鈴木 佑実	自然科学系(算数数学)	モデリングサイクルにおける数学化のプロセスに関する一考察 -アイスクリームの問題をテーマにした中学生対象の授業と大学生対象のワークショップについて-
		F④	11:15~11:35	田中 将太	自然科学系(算数数学)	逆形一般化しりとりゲームの考察と組合せゲーム教材の教育的検討

会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類
会場番号 8 [A324 教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	仙波 万葉	学校構想	異なる価値観を対比させる話し合い活動の意義
		M②	9:45~10:00	田邊 育海	学校構想	生徒の自治を支える批判的思考力の顕在化に関する研究 -校則の「本質観取」を手がかりにして-
	最終 (F)	F①	10:00~10:20	高崎 菜摘	学校構想	学級経営初期の教師の働きかけ -担任教諭へのインタビューからの検討-
		F②	10:20~10:50	藤永 さつき	学校構想	子どもの深い学びをつくる学校図書館の活用 -「自ら学ぶ子ども」を育てる実践の提案-
		F③	10:50~11:10	中田 侑果	学校保健	中学生における栄養摂取状況と睡眠状況の関連 -健康教育の充実に向けて-
		F④	11:10~11:30	山本 朋子	学校保健	多様な子どもたちを包摂する地域コミュニティの実態に対応した性教育について
		F⑤	11:30~11:50	長岡 未来	学校保健	高校生を対象としたストレスへの認知に注目した保健指導の検討 -高校生ストレスの実態把握を踏まえて-
		F⑥	11:50~12:10	竹内 日菜子	学校保健	養護教諭が行う食に関する授業と生徒の学び -成長期における中学生の食事量と食事の意義に着目して-

会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類
会場番号 9 [A325 教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	渡部 怜史	学校構想	子どもに挑戦してみようとする気持ちを育むには -自分の意見や考えを他者に伝えられるようになるには-
		M②	9:45~10:00	片寄 利幸	学校構想	子どもと向き合い、応えるということ
		M③	10:00~10:15	荒川 葉	学校構想	小学校高学年におけるスクールカースト -序列的構造とその性差、共感性との関連-
		M④	10:15~10:30	津谷 智子	学校構想	教師の欲求支援・阻害行動と学級の心理的安全性及び学級風土の関連
		M⑤	10:30~10:45	杉山 愛來	学校構想	子どもの変容と教師のまなざし
	最終 (F)	F①	10:45~11:05	若林 広泰	学校構想	生活科における「実感を伴う表現活動」の構造化に関する実践研究 -直観的表現、内省的表現、共有・相互学習の表現による認識の深まりに焦点をあてて-
		F②	11:05~11:25	堀田 卓真	学校構想	FoMOとPSMUを用いたスマートフォン適切利用の介入方法の検討
		F③	11:25~11:45	牧野 優太	学校構想	教育における自己形成と関係形成の作用 -関係的出来事を通して-
		F④	11:45~12:05	渡邊 昂太	学校構想	中学3年生のストレス状況下における二次元レジリエンスと外在化・内在化問題の関連

会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類	
会場番号 10 [A426 教室]	中間 ( M )	M①	9:30~9:45	伊藤 穂香	子ども共育(教育学)	ことばの学びはいかにして「つながり」の基盤となるのか	1 学卒
		M②	9:45~10:00	永坂 遥人	子ども共育(教育学)	学びの共同体における「学び合う関係」を保障するために	1 学卒
		M③	10:00~10:15	棚澤 飛鳥	生活創造系(家庭)	中学校家庭科における「健康・安全」の見方・考え方を育成する授業内容の検討	1 学卒
		M④	10:15~10:30	柴崎 美羽	生活創造系(家庭)	家庭科を通して高校生が「ウェルビーイング」について学ぶこと	1 学卒
		M⑤	10:30~10:45	嶋田 朱莉	生活創造系(家庭)	小学生の住生活文化に対する意識の考察 —家庭科授業実践に向けた和室・畳に関する基礎調査より—	1 学卒
	最終 ( F )	F①	10:45~11:05	池田 周登	生活創造系(技術)	生成AIを活用したディベート学習に関する指導過程の提案と授業実践	2 学卒
		F②	11:05~11:25	阿波連 実里	子ども共育(教育学)	子どもの権利を尊重する学校づくりに向けた教師の連帯の可能性	2 学卒
		F③	11:25~11:45	石井 優愛	子ども共育(幼児教育)	幼児期の自然体験活動に関する一考察 —幼児期の養育環境と就学後の社会情動的スキルに着目して—	2 学卒

会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類	
会場番号 11 [A427 教室]	中間 ( M )	M①	9:30~9:45	太田 慧南	子ども共育(教育学)	初任者研修制度の変遷	1 学卒
		M②	9:45~10:00	佐藤 優成	子ども共育(教育学)	ジェンダー規範がキャリア教育に与える影響に対する省察	1 学卒
		M③	10:00~10:15	大塚 大和	子ども共育(教育学)	学校における授業づくりと生徒理解の在り方 —不登校経験をもつ生徒の視点から—	1 学卒
	最終 ( F )	F①	10:15~10:35	藤井 菜緒	子ども共育(教育学)	教育的機能と福祉的機能の融合をめざす教育政策の現代的課題と展望 —夜間定時制高校における質的調査から—	2 学卒
		F②	10:35~10:55	柳下 菜々花	子ども共育(教育学)	学校内の「居場所」の課題と可能性	2 学卒
		F③	10:55~11:15	井上 希彩	子ども共育(教育学)	グループでの学習時における教師の意思決定のプロセスと省察に関する事例研究	2 学卒

会場	発表順番	発表時間	氏名	SP	課題研究題目	分類	
会場番号 12 [D103 教室]	中間 ( M )	M①	9:30~9:45	栄島 秀介	特別支援	テクノロジー分野の教育における学びのユニバーサルデザインを用いた授業実践 —実験・実習における安全教育の充実に向けて—	1 現職通常年限2年
		M②	9:45~10:00	黒田 ひかり	芸術系(美術)	異文化との出会いを通じた他者受容と自己理解について —図画工作・美術科授業の可能性—	1 学卒
	最終 ( F )	F①	10:00~10:20	宮尾 潤	特別支援	特別支援教育に対する高等学校教員の捉え方について —協働的に特別支援教育に取り組む学校組織の風土の醸成に向けて—	1 現職
		F②	10:20~10:50	監物 良太	芸術系(美術)	美術教育におけるドローイング(主観的素描)が果たす役割についての考察	2 学卒
		F③	10:50~11:10	赤沼 浩太	芸術系(美術)	図画工作科における主体的・対話的で深い学びの実践研究 —抽出児童の分析に基づく教育効果の検証を通じて—	2 学卒
		F④	11:10~11:30	宇田川 海	芸術系(美術)	子どもの発想・構想に関する資質能力を伸ばすための題材研究 —画像生成AIを活用した授業題材の開発と実践—	2 学卒
		F⑤	11:30~11:50	平良 瑞希	芸術系(美術)	学校内におけるサードプレイス創出の試み —美術素材を媒介とした放課後実践「止まり木」を通じて—	2 学卒

## 2025 年度埼玉大学教職大学院課題研究発表会 発表要旨フォルダ《トップページ》



<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1eP4HFpWQf9gfTVcWXK6n15sUU3fNzjvS>

### 👉 会場毎のフォルダ

【会場番号 1】課題研究発表会要旨

<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/15J5ydDxF5oqIxSnZbDd-bqhG1fjNn22r>

【会場番号 2】課題研究発表会要旨

<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1E3EEB8CCD8iQqjwhiwpcyuNPhkTEVynq>

【会場番号 3】課題研究発表会要旨

<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1Nhkw-9YE8c7zmflo-79UI7zhwLqeO96B>

【会場番号 4】課題研究発表会要旨

<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1bY8fR3H2YZxIbu16YFg8B4A7ngH-wXmE>

【会場番号 5】課題研究発表会要旨

[https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1Gklgcg4KPacNs4By5j\\_RLZIwY8QUvj0q](https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1Gklgcg4KPacNs4By5j_RLZIwY8QUvj0q)

【会場番号 6】課題研究発表会要旨

<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1mDA62XV8R0QxMIWoCLFjv9uGd-jlrik>

【会場番号 7】課題研究発表会要旨

<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1Oahmv7R2iqOikRA53tGlo2kRf1xSXPEM>

【会場番号 8】課題研究発表会要旨

<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1dX5UjlxFp8IHFHU54JfAbvm3aziHcpbS>

【会場番号 9】課題研究発表会要旨

<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1G2VoqvVzX3pALqSOpNLwUkvOijqTXz2E>

【会場番号 10】課題研究発表会要旨

[https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1\\_Mg-7Lur5Uqp5PESpjK8K8rWNH4UiI-u](https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1_Mg-7Lur5Uqp5PESpjK8K8rWNH4UiI-u)

【会場番号 11】課題研究発表会要旨

[https://drive.google.com/drive/u/0/folders/15gm3xNMASL\\_8d0oZKA5NnaDLPolivKqv](https://drive.google.com/drive/u/0/folders/15gm3xNMASL_8d0oZKA5NnaDLPolivKqv)

【会場番号 12】課題研究発表会要旨

[https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1C1vfxU-0I2NXSKa9ld9jXPwd-\\_5UUaD-](https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1C1vfxU-0I2NXSKa9ld9jXPwd-_5UUaD-)



1949 – 2029



埼玉大学は 2029 年に  
創立 80 周年を迎えます